

2023年3月期

決算説明資料

2023年5月19日



半導体部品の入手難による影響等があり、売上高は前期比で微増に留まり、生産ラインの操業度低下、開発投資費用の増加等により、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で減益となった。

(単位：億円)	2021/3	2022/3	2023/3	
	実績	実績	実績	前期比
売上高	927	850	854	+4
営業利益	57	53	51	▲2
経常利益	64	65	59	▲6
親会社株主に帰属 する当期純利益	49	45	40	▲4

セグメント別①売上高・セグメント利益

- 交通運輸インフラ事業 : 売上の繰り延べ等による影響で、前期比で減収。
- ICTソリューション事業 : 運賃改定対応等のAFC案件増加により、前期比で増収。

(単位：億円)	2021/3		2022/3		2023/3		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
交通運輸インフラ事業	511	71	488	52	470	51	▲17	▲1
ICTソリューション事業	415	16	362	33	384	33	+22	+0
全社費用	—	▲30	—	▲31	—	▲33	—	▲1
合計	927	57	850	53	854	51	+4	▲2

セグメント別②受注高・受注残高

(単位：億円)	2022/3			2023/3			前期比		
	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高
鉄道信号	372	425	396	541	394	543	+169	▲30	+147
スマートモビリティ	67	62	8	75	75	7	+7	+12	▲1
交通運輸インフラ事業	440	488	404	616	470	550	+176	▲17	+146
AFC	281	287	160	293	311	142	+12	+24	▲18
スマートシティ	75	74	10	79	72	18	+4	▲2	+8
ICTソリューション事業	356	362	171	373	384	161	+17	+22	▲10
合計	797	850	575	990	854	711	+193	+4	+136

鉄 道 信 号 ▶ 受注増は国際事業の影響による。売上の繰り延べ等により減収となった。

スマートモビリティ ▶ 交通管制システム案件等による受注増・増収。

A F C ▶ 受注増は国際事業の影響による。国内の運賃改定対応等の案件により増収となった。

スマートシティ ▶ 3D距離画像センサ、セキュリティシステム等の売上減少により減収となった。

セグメント別③国際事業の状況

(単位：億円)	2022/3			2023/3			前期比		
	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高
海外鉄道信号	37	65	158	242	62	339	+205	▲3	+180
海外AFC	0	10	18	41	11	48	+40	+0	+29
海外合計	37	76	177	283	73	387	+246	▲2	+210

海外鉄道信号 受注は主にフィリピン マニラ地下鉄、売上はインド アーメダバードメトロなどによる。

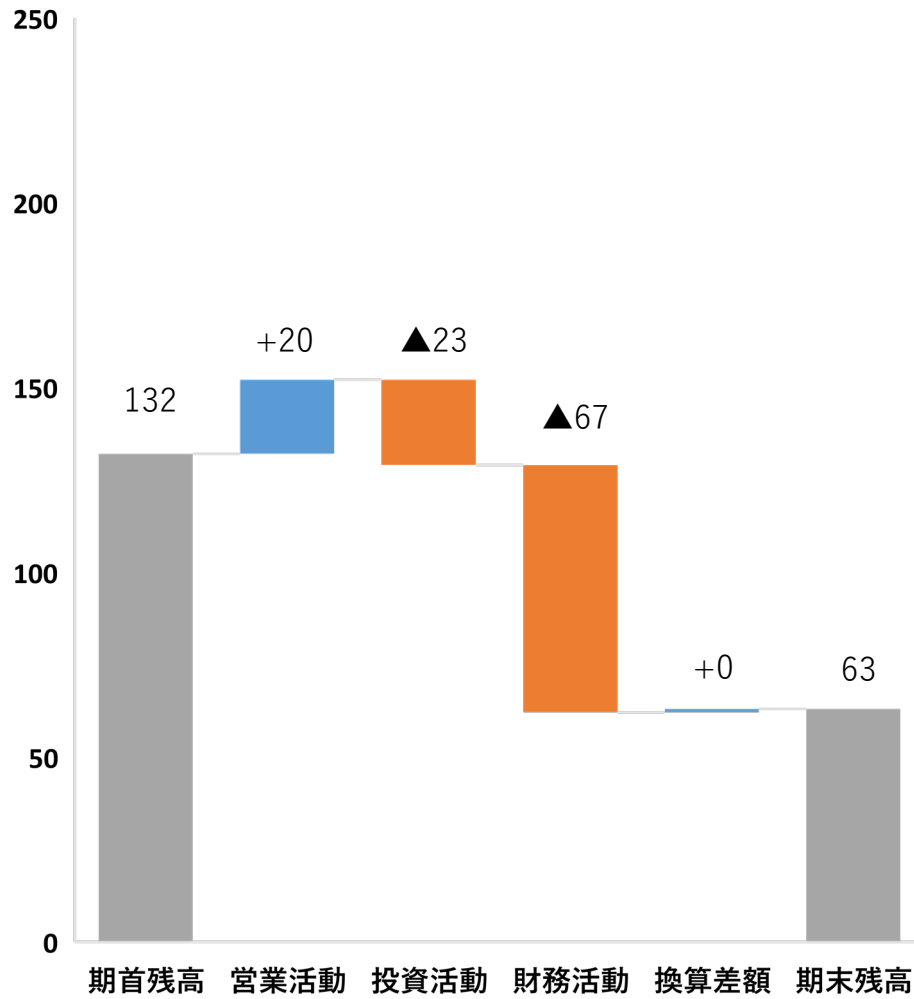
海外AFC 受注は主にエジプト カイロ4号線、売上はバングラデシュ ダッカメトロ6号線などによる。

海外全体 海外大型案件の受注により、受注残高は過去最高となった。

(単位：億円)	2022/3	2023/3	
		実績	前期比
総資産	1,340	1,460	+119
売上債権・棚卸合計	782	856	+74
有利子負債	117	175	+57
自己資本	867	893	+26
売上債権・棚卸比率	58.3%	58.6%	+0.3pt
有利子負債比率	8.8%	12.0%	+3.2pt
自己資本比率	64.7%	61.2%	▲3.5pt

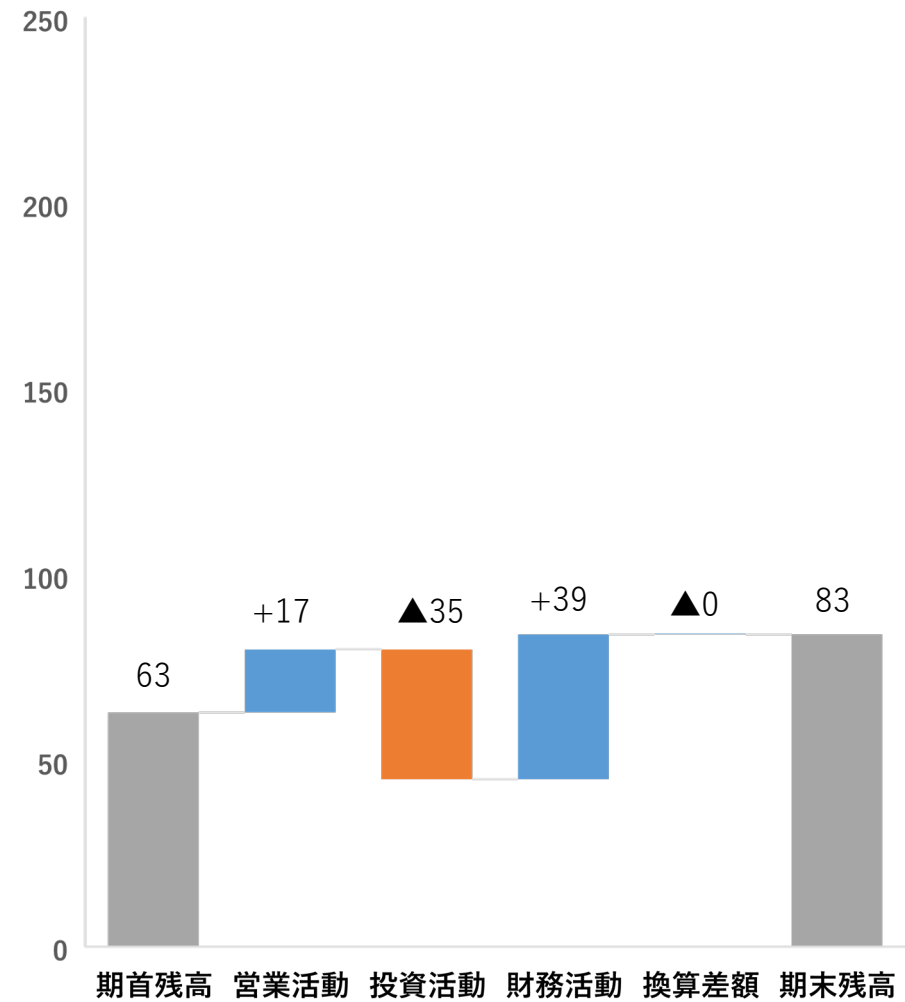
キャッシュフロー計算書

(単位：億円)



2022/3

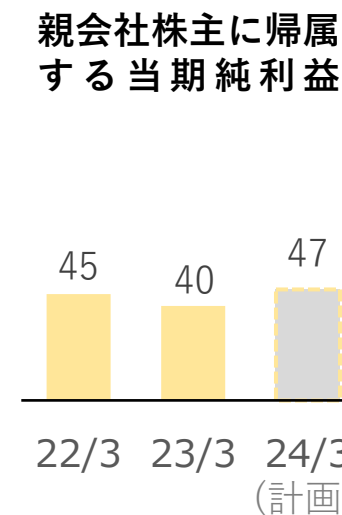
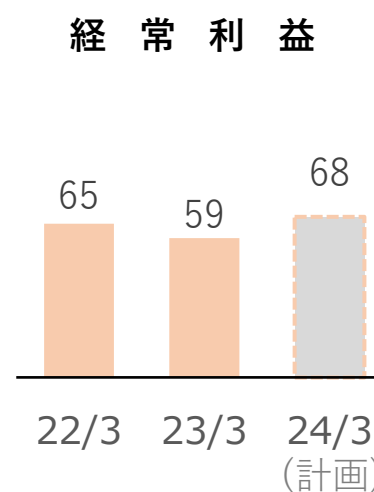
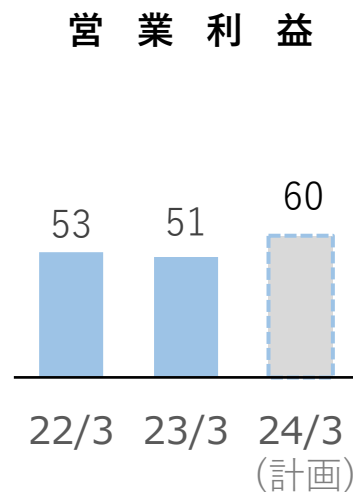
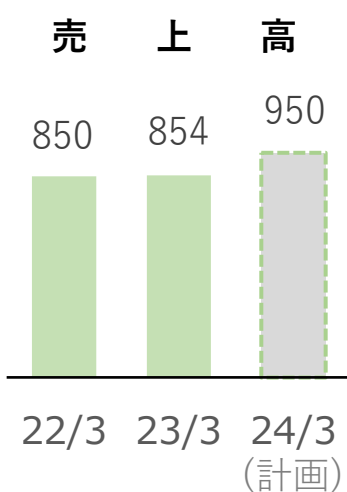
(単位：億円)



2023/3

2024年3月期通期計画 計画

(単位：億円)	2022/3	2023/3	2024/3	
			計画	前期比
売上高	850	854	950	+95
営業利益	53	51	60	+8
経常利益	65	59	68	+8
親会社株主に帰属 する当期純利益	45	40	47	+6



受注高・売上高推移（鉄道信号）計画

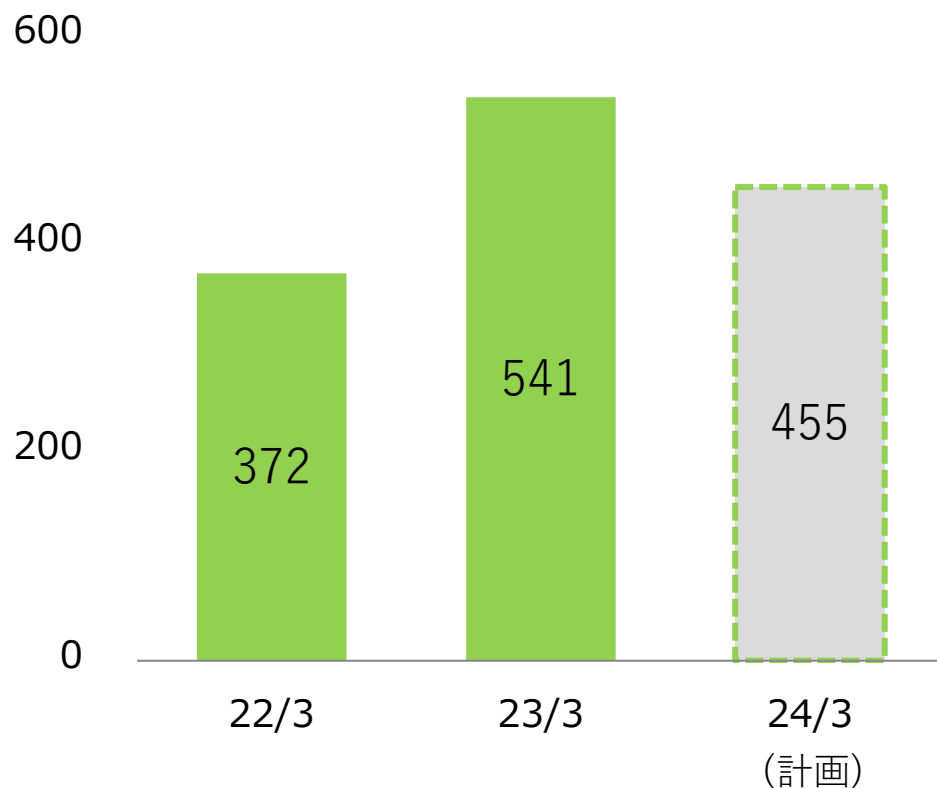
鉄道信号事業

With コロナにおける顧客の構造改革を支えるソリューションとして自動運転や遠隔監視、SPARCS（無線式列車制御システム）等の設備のスリム化、省力化に注力し、社会課題である労働人口の減少、自然災害、脱炭素に対応・配慮した製品の開発に取り組む。

主な事業内容：自動列車制御装置（ATC）、無線式列車制御システム（SPARCS）ほか

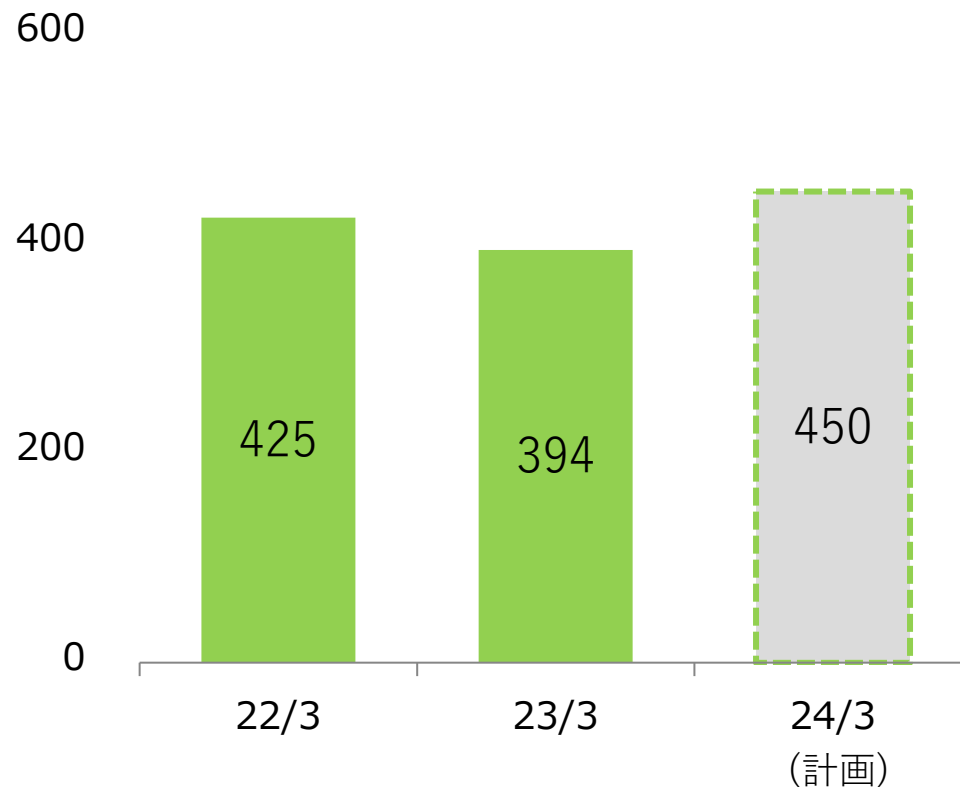
受注高

(億円)



売上高

(億円)



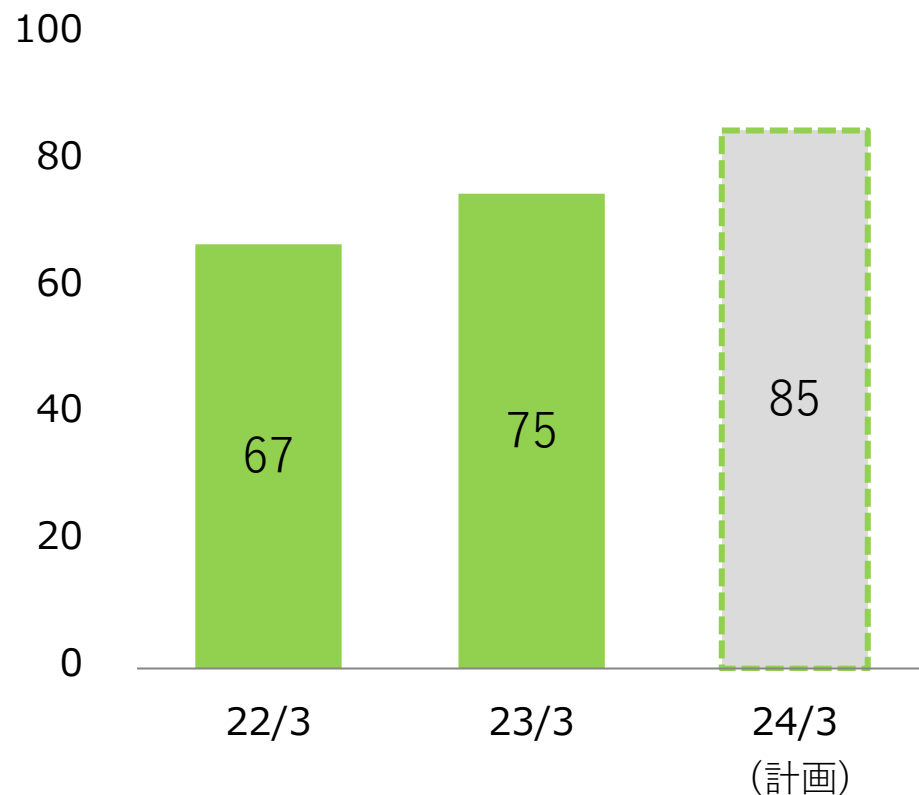
スマートモビリティ事業

「くるLink」（ファースト・ラストワンマイルサービス）や、信号機等のインフラと自動運転車両が連携した自動運転関連サービスの社会実装を目指した製品開発、事業化に取り組む。

主な事業内容：交通管制システム、交通信号制御機・灯器 ほか

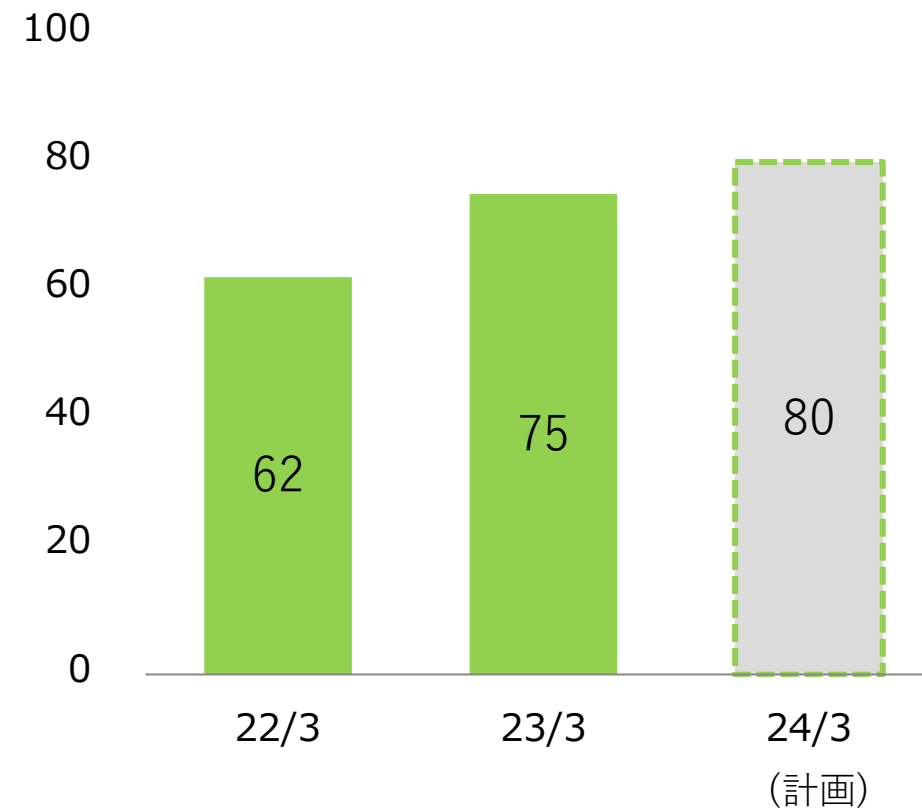
受注高

(億円)



売上高

(億円)



AFC事業

MaaSの本格展開を見据えキャッシュレス決済システム、設備投資費用を抑えた3D距離画像センサ活用による新型ホーム監視システム、低コストホームドアの開発等に取り組む。

主な事業内容：自動改札機、ホームドア、駐車場管理システム ほか

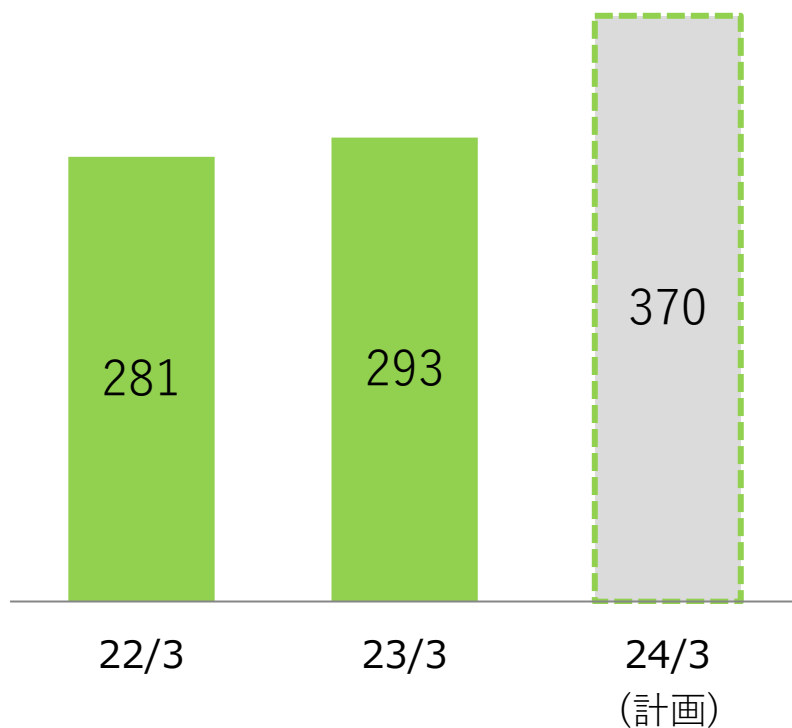
受注高

(億円)

400

200

0



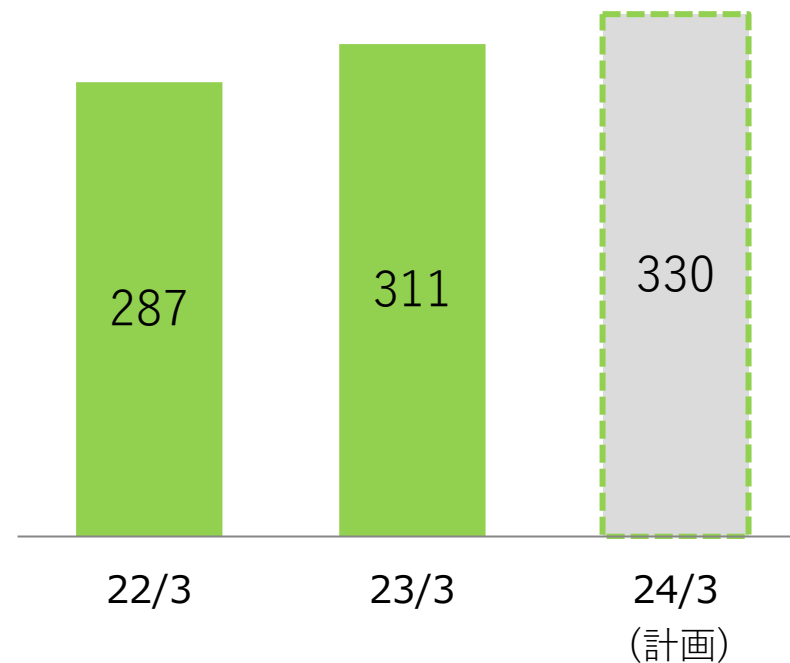
売上高

(億円)

400

200

0



スマートシティ事業

顔認証・非接触技術等の新技術に対応した入退管理システムを含めたビルセキュリティソリューションや、多種多様なロボット開発に取り組む。

主な事業内容：セキュリティゲート、自動清掃ロボット、3D距離画像センサ ほか

受注高

(億円)

100

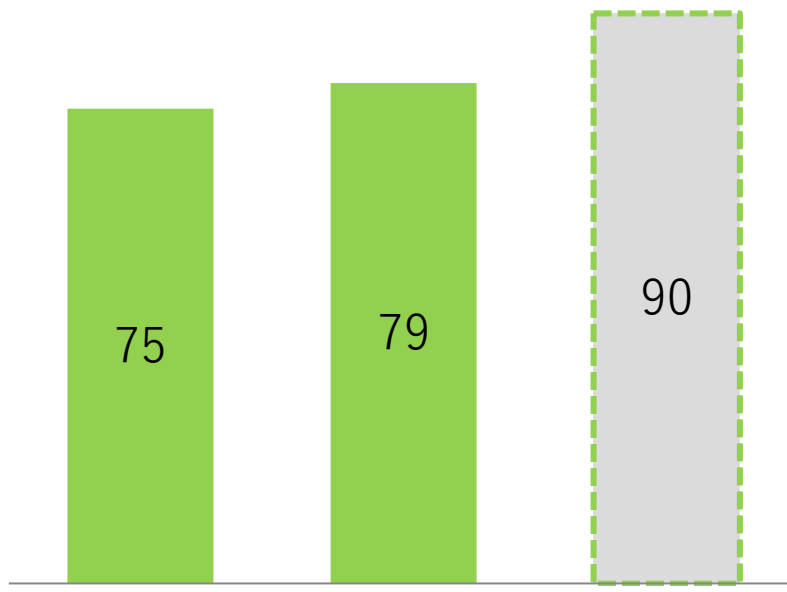
80

60

40

20

0



22/3

23/3

24/3

(計画)

売上高

(億円)

100

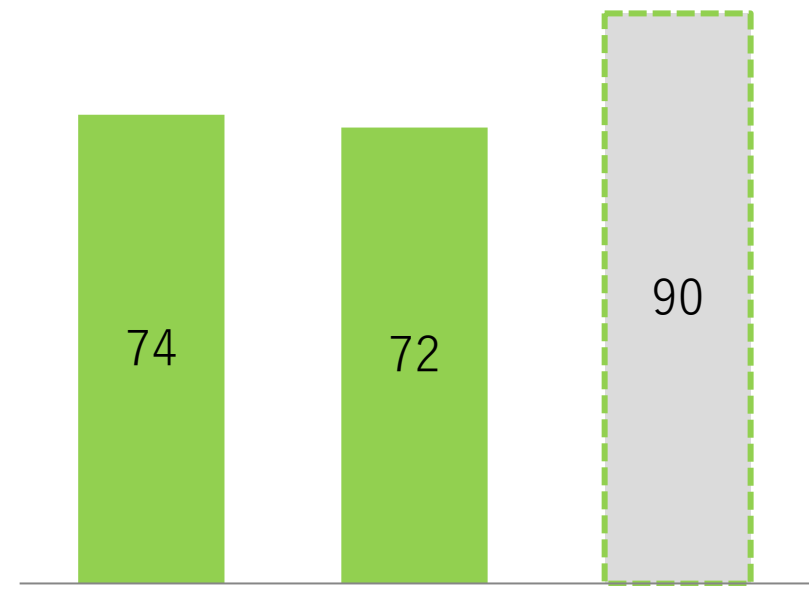
80

60

40

20

0



22/3

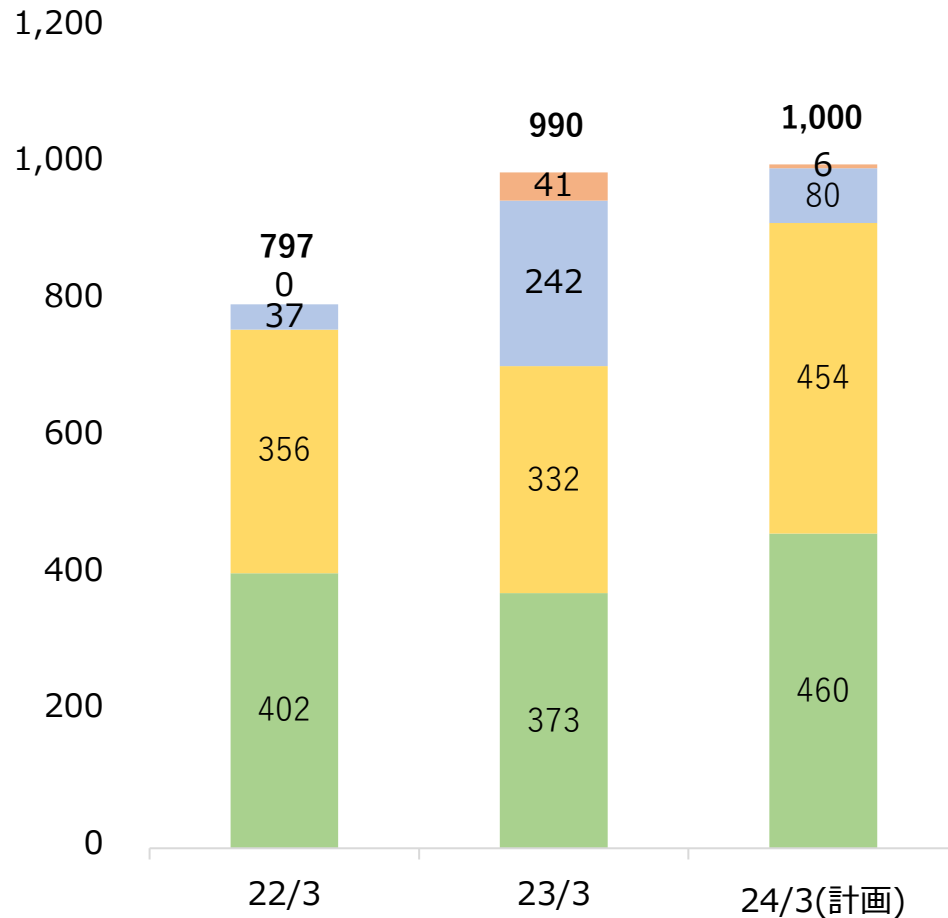
23/3

24/3

(計画)

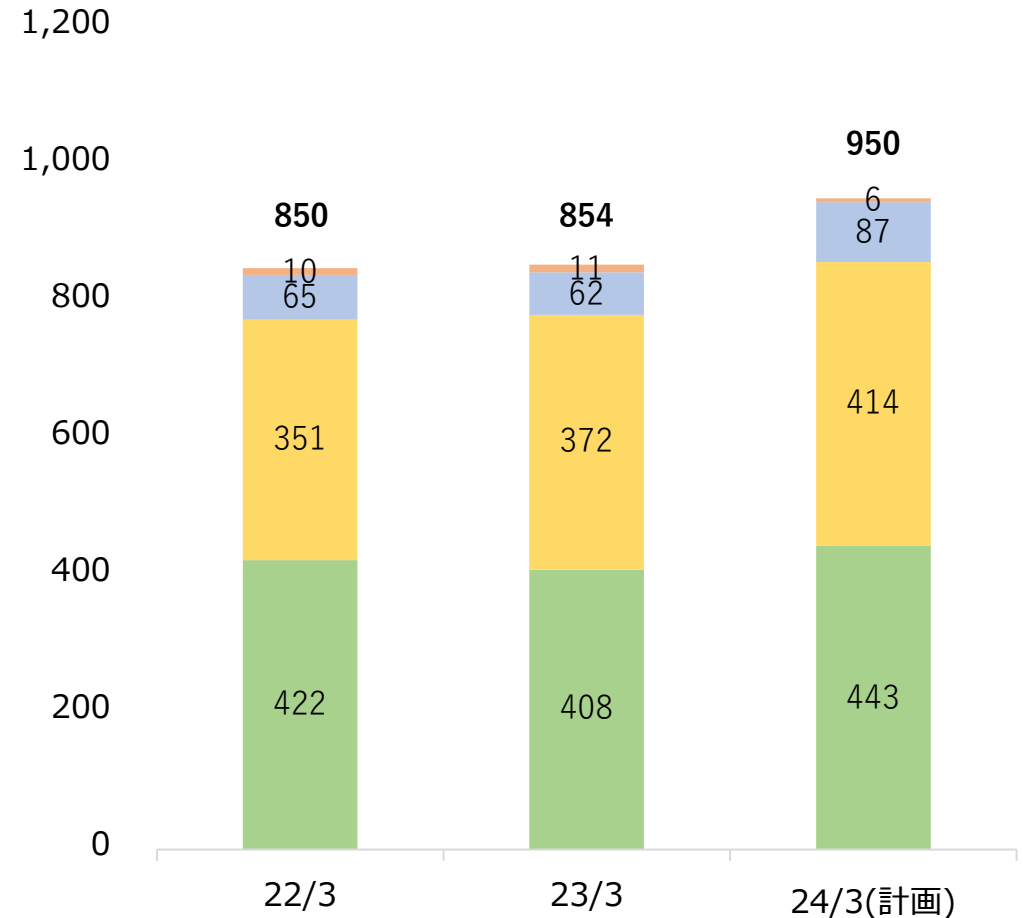
受注高

(億円)



売上高

(億円)

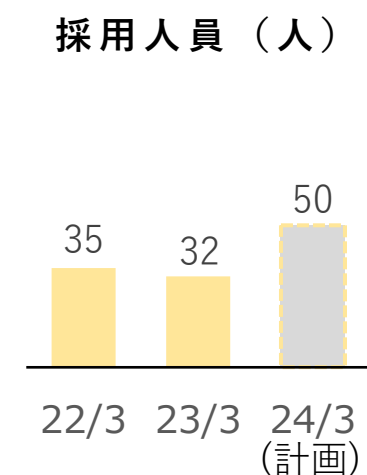
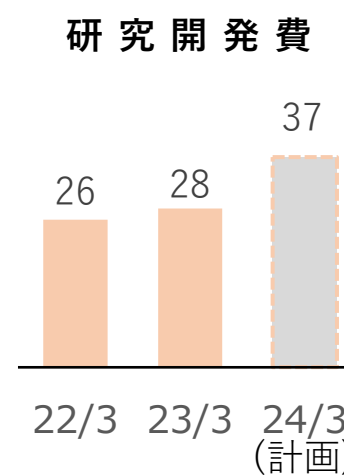
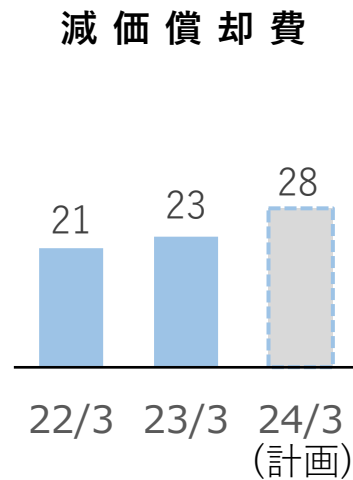
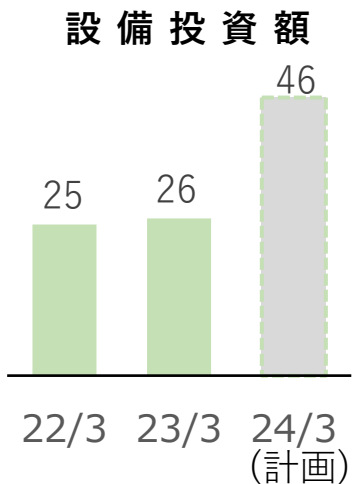


セグメント別（セグメント別利益） 計画

(単位：億円)	2022/3	2023/3	2024/3	
			計画	前期比
交通運輸 インフラ事業	52	51	55	+3
ICTソリューション 事業	33	33	39	+5
全社費用	▲ 31	▲ 33	▲ 34	▲ 0
合計	53	51	60	+8

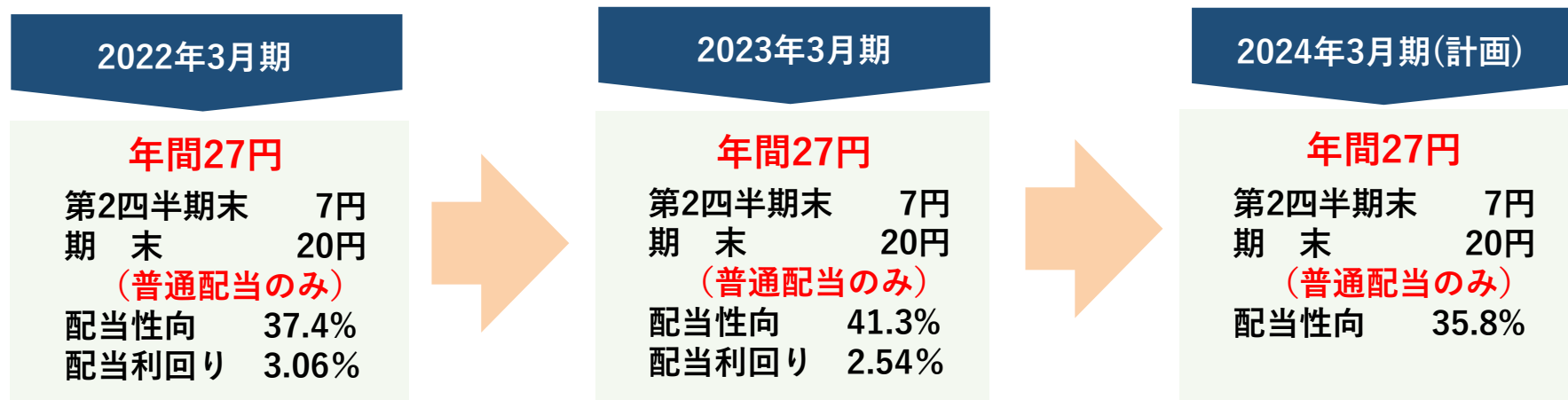
(単位：億円)	2022/3	2023/3	2024/3	
			計画	前期比
設備投資額	25	26	46	+19
減価償却費	21	23	28	+5
研究開発費	26	28	37	+8
採用人員 (人) ※	35	32	50	+18

※採用人員は当社単体

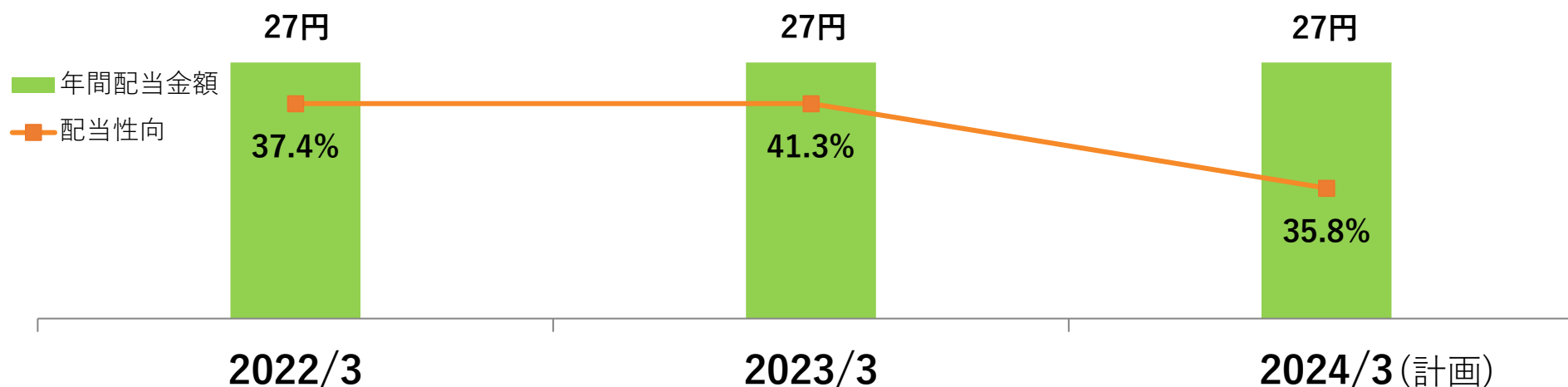


利益還元（配当金）について

- 配当については、財務体質の強化を図りつつ毎期の業績・新規投資を勘案しながら、連結配当性向30%前後を目安に安定的・継続的に行うよう努める。
安定的な配当継続を重視し、年間配当金額は27円を維持。



※配当利回りは年間配当金÷期末株価で算出



基本コンセプト 「インフラのNext Stageを支える」

重点課題

1

コロナ禍後における
お客様との価値共創

- 顧客の構造改革を支えるソリューションビジネス拡大と商材開発
- 顧客志向の徹底とマーケティング力・提案力強化

2

国際事業の拡充と
収益力向上

- メガシティに根付いた事業展開、拠点戦略推進
- 整流化とグローバル対応力強化

3

ソフトウェアファースト時代の
設計力・ものづくり力の強化

- 設計プロセスからのQCD最適化、グループ力・内製化強化
- 開発力強化とDX※¹に適應した設計・生産体制の確立

ESG経営の推進と
企業価値向上

- E : TCFD※²参画、脱炭素化推進
 - S : 人事制度改革、働き方改革・健康経営の推進
 - G : CGコード改訂への対応、プライム市場への適合
- グループ会社機能再編、人材育成、次期基幹システム導入

※1 DX …デジタルトランスフォーメーション

※2 TCFD…Task Force on Climate-Related Financial Disclosures|気候関連財務情報開示タスクフォース

140期の主なトピックス

鉄道信号

詳細

- | | | | |
|---|--------------------|----------------------------|----------|
| ① | 自動運転 | JR九州 鹿児島本線 走行試験 | 補足資料 P10 |
| ② | CBTC※ ¹ | 西武鉄道多摩川線 実証試験に向けたシステム設計の受注 | 補足資料 P11 |

自動運転（スマートモビリティ）

詳細

- | | | | |
|---|----------------------|-------------------------------|-------------|
| ③ | BRT※ ² | JR東日本 気仙沼線BRT、JR九州 日田彦山線BRT受注 | 補足資料 P14 |
| ④ | I2V※ ³ | 柏の葉、宇都宮市、塩尻市、日立市、境町など（全15件） | 補足資料 P15、16 |
| ⑤ | くるLink※ ⁴ | 第1期浦和美園 実証実験 | 補足資料 P17 |

MaaS（キャッシュレス）

詳細

- | | | | |
|---|-------------------|--------------------------|----------|
| ⑥ | | JR九州 実証実験 | |
| ⑦ | 非接触
クレジットカード対応 | 福岡市地下鉄実証実験 | |
| ⑧ | | 江ノ島電鉄 運用開始 | 補足資料 P21 |
| ⑨ | QRコード | JR九州、JR西日本 福岡・長崎地区での実証実験 | |

※1 CBTC …Communications-Based Train Control（軌道回路等の閉塞によらず、無線により地上車上子間で大容量データを通信し、列車を制御制御および防護するシステム）

※2 BRT …Bus Rapid Transit（バス高速輸送システム）

※3 I2V …Infrastructure to Vehicle（インフラから車両への路車間通信）

※4 くるLink…駅等を中心としたラストワンマイル移動サービスの名称

国際事業の拡充と収益力向上

国際案件の履行から保守・メンテナンス、延伸案件と市場開拓による継続的な事業展開、メガシティに根付いた事業展開による収益力向上を目指すと共に、海外現地化を進めグローバル対応力強化を図ります。

140期実績

拠点新設 Nippon Signal Bangladesh Private Limited（2022年11月）

新線 カイロ地下鉄4号線（鉄道信号、PSD）
 マニラ地下鉄（鉄道信号）

延伸 デリーメトロ8号線（鉄道信号）

増車 北京地下鉄15号線（鉄道信号）

141期計画

新線 インド（AFC）
 バングラデシュ（鉄道信号、AFC、PSD）

延伸 インド（鉄道信号）
 インドネシア（鉄道信号）

複線化・増車 台湾（鉄道信号）

QCD向上を目的とした設計手法であるステージゲートの運用開始、ホーム柵の増産に向けた生産ラインの効率化等を実施。

ソフトウェアファースト時代において、市場競争力のある商材の開発・設計（交通分野の自動運転、クラウド化、キャッシュレス等）を推進。

